令和元年度(2019年度)第2回 豊中市保健医療審議会 議事録

1. 日 時 令和2年2月17日(月)14時00分～15時30分
2. 場 所 豊中市保健所 2階講堂
3. 案 件 (1)「豊中市健康医療戦略方針」素案 について
(2)たばこ施策の推進 について
(3)その他

4. 出席者 (敬称略)

(1)委員(名簿順):15名

- 会 長 内藤 義彦(武庫川女子大学)
副会長 地 岬 剛史((一社)豊中市医師会)
委 員 横山 美江(大阪市立大学大学院)
岡本 千加((一社)大阪府助産師会)
真鍋 哲也((一社)豊中市歯科医師会)
芦田 康宏((一社)豊中市薬剤師会)
川本 年男(豊中公衆衛生協力会)
村上 功(豊中市介護保険事業者連絡会)
西村 栄一(豊中市民生・児童委員協議会連合会)
山西 洋一(豊中商工会議所)
古川 悦子(豊中市健康づくり推進員会)
齊藤 健文(連合大阪北大阪地域協議会豊中地区協議会)
東 久美子(市民委員)
堀 道子(池田子ども家庭センター)
吉川 秀樹(市立豊中病院)

(2)関係者出席:1名

- 宮下 典久(豊中警察署)

(3)傍聴者:1名

議事概要

- 開会 午後 2時00分
- 資料の確認
- 部長あいさつ

■委員紹介および成立要件の確認

事務局	(資料確認) (司会交代)
会長	委員の出席状況について報告を。
事務局	■成立要件の確認 委員数19名のうち、15名が出席しているため当審議会で定める委員定数の過半数を超えており、成立要件を満たしている。
会長	案件にはないが、新型コロナウイルス感染症について、事務局より報告を。
事務局	(新型コロナウイルス感染症について、市の対応など報告)

■案件(1)「豊中市健康医療戦略方針」素案 について

■事務局から説明

副会長	平均寿命と健康寿命は両方伸びていると思われるが、その差は最近の傾向としては縮まってきているのか。
事務局	概ね縮まってきている。
会長	特定健診受診者のデータも活用するということであるが、国保加入者以外のデータはどのように確保するのか。また、地域職域連携についての考えは。
事務局	国保加入者データ以外は把握していないが、今後、後期高齢者については、把握し活用する予定である。 地域職域連携についても具体的な事業協力には至っていないが、今後は、

	取り組んでまいりたい。
委員	公民学の連携についての取り組みはどのように行っているのか。
事務局	児童虐待発生予防啓発資財の大学との共同開発は、既に取り組んでいる。血管プロジェクトについても、今後高血圧や運動のテーマについて、大学や民間企業などを巻き込んだ取り組みを進めていきたい。
委員	業務時間に縛られないサービス提供とはどのようなイメージか。
事務局	現在アプリを活用した禁煙支援をやっているが、この事業のように、保健所や医療機関が開いている時間以外でも、サービス提供を行うことができる事業をイメージしている。
会長	I C T弱者に対する配慮は。
事務局	健康マイレージ事業は、アプリを用いる事業であるが、一方でアプリを使えない方向けには、歩数計を使用するなどにより対応している。 I C Tを活用できない方でも、事業に参加できるよう、工夫しておこなっていききたい。
委員	「血管プロジェクト」の取り組み内容と進捗管理はどのように行っているのか。
事務局	例えば減塩であれば、取り組み例の啓発などを主に行っている。各分野別計画で数値目標を掲げておりますので、その数値目標を基に、進捗管理を行う。
委員	リハビリ専門職の方とも、保健所としても何か連携して取り組みを行う予定はあるのか。
事務局	介護認定疾患を予防する取り組みや、介護予防と保健事業の一体化においてフレイル予防の取り組みを進めていくためにも、リハビリ専門職の方々との連携を、今後行っていくことになると考えている。
委員	減塩協力店の表示はどのように行っているのか。

事務局	減塩については、市内協力店舗の募集などを行っており、随時、ウェブ上に掲載していくことと、チラシ等も作成する予定である。
会長	店舗における禁煙を促進させるような仕掛けは考えているのか。
事務局	豊中市独自で何かということは、考えていないが法に則り啓発を進めていく。
委員	豊中市は、平均寿命と健康寿命の差がわずかであるが、この差を縮小していく計画ということによいか。
事務局	お見込みのとおり。
委員	健康寿命の表では、豊能・三島医療圏のうち豊中市は、後ろから3番目の位置となるが、その理由は。
事務局	明確な原因は不明であるが、豊中市南部では健康課題を抱える方が多く、そういった影響も考えられる。

■案件(2) たばこ施策の推進について

■事務局から説明

副会長	受動喫煙防止の対象として、加熱式たばこも含まれることを強調する必要はないか。
事務局	作成予定のチラシで、できるだけ市民の方にわかりやすいような形で表示していきたい。
事務局	喫煙者が、禁煙にいたるまでの一つの過程として、紙巻きたばこから加熱式にするというのは、ある意味少し頑張っているということも言える。 また、少しでも受動喫煙を減らすということでは意味があるが、最終的には禁煙していただきたい。
会長	卒煙プロジェクトの予算は保険適用となるのか。
事務局	保険適用にはならない。市民であれば無料となる。

会長	不正な利用などに対する対策は。
事務局	当初の面接や、継続した連絡をとることが、プログラムの中に組み込まれているので、そういった形で対応をしている。
委員	喫煙所外での喫煙に対する対策は何か考えているのか。また、電子たばこについてはどのような位置づけになるのか。
事務局	屋外分煙所の整備と併せて、喫煙マナーの啓発もあわせて行っていく。また、電子たばこについては、今回の規制の対象外になるため、市民の方に、周知のほう図ってまいりたい。
委員	卒煙プロジェクトは、いつからスタートし、これまで何人の方が利用されているのか。
事務局	令和元年の7月1日からスタートしており、1月末現在で、126名の方が参加されている。
委員	市役所の屋外喫煙所の設置は、どのような形で行うのか。
事務局	市役所の現在の屋外喫煙場所を令和2年3月で廃止し、改めて4月から市役所の近くに公衆喫煙所を設置し、供用開始する予定である。

■案件(3) その他

事務局	(保健所ツイッターについて説明)
事務局	次回の審議会は本年7月を予定している。

■閉会 午後 3時30分